

エレガント英語への道 V

生井利幸

ディクテーションを通して、
少しずつ、「英語の一語一語の『深さ』『重さ』」を感じ取る

当・英会話道場イングリッシュヒルズでは、毎回のレッスンにおいて「講師の許可」を得ることを条件に、講師が賦与する教授内容について、ボイスレコーダーを使ってそのすべてを録音することが許されています。

通常、教室のレッスンは60分（1時間）単位で行われます。したがって、受講生は、それぞれのレッスン受講の際、レッスン・スタート時に「講師の許可」を得れば、毎回、「その60分レッスンにおいて講師が発するすべての英語」を録音することができます。

ディクテーションは、単なる英語の聞き流しではなく、いわゆる「英語の書き取り」を意味します。聞き流しは、何の苦勞もなく単に聞き流すだけですが、書き取りを行うには、「それなりの時間・エネルギー」を必要とします。

例えば、60分レッスンで講師が話す「僅か5分」の内容でも、その「5分」の中には、膨大な量の英語が詰まっています。通常、受講生は、ボイスレコーダーに録音済みのレッスン内容を再生すると、「たった5分」という“物理的に”短い時間でも、講師の生井利幸は、「実に“膨大な量の英語”を教授している」という事実気づきます。

この事実、レッスン受講時、即ち、「レッスンにおいて、“受身”で、単に講師の英語を

聞いているだけ」の時には、まったく気づかない事実でしょう。ところが、実際の 60 分レッスンを受講後、家に戻ってレッスンの復習としてディクテーションを始めると、「ほんの 5 分」の間に講師が話す英語を実際にノートに書き取ってみると、その書き取りのために「相当な時間」を要するということがわかってきます。

実際に講師の英語のディクテーションを行い、「講師の英語のディクテーションを行うにあたり、(想像していた以上に) 相当な時間がかかる」ということがわかってきたとき、受講生は初めて、「講師がレッスンにおいて教授する英語の量は、“通常の常識を超越する” 膨大な量の英語である」ということに気づきます。

無論、通常の常識を超越するものは、決して「量」だけではありません。言うまでもなく、講師が行う 60 分レッスンにおいては、教授する英語において「相当の量」があるだけでなく、そのすべての英語は「実に世界最高峰レベルと言える『極上のエレガント英語』」で表現されています。「量だけでなく、『質』(quality) 自体も世界最高峰の教授内容をボイスレコーダーで録音し、それを自宅に持ち帰ってしっかりと復習できる」、・・・言及するには及びませんが、国内外において、これ以上の恵まれた学習条件は存在しません。

ここまで話が進むと、次のことがわかってきます。それは即ち、当教室において「ディクテーションを通してレッスンの復習を行う」という学習方法を行うには、それを実行する以前の問題として、受講生自身が、「前もって、ディクテーションを行う上での固い決意をすることが必要不可欠である」ということです。

では、ここからは、ディクテーションについて、受講生の皆さんにとって「最もわかりやすい方法」で一緒にイメージしていただきます。

まずはじめに、頭の中で、1) 「大きな山」をイメージしてください。あなたの目の前には、「大きな山」が見えます。そして、その大きな山の向こう側には、2) 「美しく広がる広大な海」があるとイメージしてください。今ここで、この「美しく広がる広大な海」を、「エレガント英語スピーカーが備える『国際レベルの教養・品格』の具象・具現・象徴」と仮定します。

大きな山の向こう側にある「美しく広がる広大な海」。この美しく広がる広大な海に到達するには、「目の前に聳え立つ大きな山の真正面から『トンネルを掘る』(bore a tunnel, dig a tunnel) という方法しかない」とイメージしてください。

あなたが、どうしても山の向こう側にある「美しく広がる広大な海」に到達したいのであ

れば、どのように時間がかかっても、毎日、コツコツとトンネルを掘り続け、山の反対側までトンネルを貫通させる必要があります。このコツコツとトンネルを掘り続ける学習経験こそが、「ディクテーションを通して行う『エレガント英語スピーカーへの道のり』」であると明言することができます。

日本におけるほとんどすべての英語学習者は、高く聳え立つ大きな山の面前で、“右往左往”するだけ、あるいは、単に“立ち往生”するだけにとどまっていると言えるでしょう。

暗記による学習方法では、5年、10年、20年、いや、それ以上学習をし続けても、延々とエレガント英語を習得することは不可能です。エレガント英語を習得するには、暗記、あるいは、聞き流しの学習方法では、その習得は不可能です。「エレガント英語の『深遠さ』」をしっかりと学習・習得するには、一事が万事において、“汗と涙で”ディクテーションを積み重ねていく」という学習方法しか、その道はありません。

当・英会話道場イングリッシュヒルズにおいて、自分の夢を実現させるためには、暗記学習という「英語の学習方法に対する“一般的日本人が持つ固定観念”」から完全に離れることがまず第一に必要です。そして、講師が明言する「ディクテーションの重要性・威力」をしっかりと認識・理解し、毎日の24時間において、一分一秒たりとも無駄にすることなく、ディクテーションを行うことが極めて重要です。

生井利幸のレッスンの復習として「相当なる時間・エネルギー」を投じてディクテーションを継続的に行っていくと、やがて、これまでの人生においては決して経験しなかった「深遠なるエレガント英語（教養英語）の世界」に入るための「入口」(entrance)を見つけ出すことができます。エレガント英語への「入口」を見つけ出し、その入口の扉を開けてそこに入れたとき、あなた自身、初めて、真の意味での『国際的教養・品格を備えた英日バイリンガル』として自分を変貌させるための道のりを歩むことが可能となります。

“The effectiveness of taking dictation for the sake of mastering elegant English”

I'd like you to by inches grasp and comprehend the significance of taking dictation in the study for the sake of the realization of elegant English in the future. Because just listening to English comfortably without writing anything doesn't work well for mastering English at all. Simultaneously, you just waste your important time limited through doing so in the whole of your life.

Taking dictation in a process to carefully review the lessons given by your instructor is essential for you to go forth in your valuable study. There are no other surefire leaning ways to be successful other than taking dictation in the lessons here in this school, English Hills, Ginza.

Taking dictation shall be interpreted as digging a tunnel through a high mountain for the sake of the realization of your authentic leaning experience in English. This action is “absolutely indispensable” to reach the stage of elegant English in the future.

I'd like you to enjoy digging the tunnel through the mountain for your sake. The important point is how you enjoy digging the tunnel yourself. Whether you enjoy digging the tunnel or not is a really matter of how you enjoy touching “sensitive and delicate elements of elegant English” spoken by your instructor, Toshiyuki Namai.

You gradually would be more sensitive and delicate in the process to take dictation through doing it continuously. This means that you are trained to minutely refine your sensibility and delicacy through taking dictation.

[追記]

・・・ディクテーションが楽しめるようになったら、「次のステージ」が見えてくる

「生井利幸が発する英語のディクテーション」を通して歩むエレガント英語習得への道のりは、“世間一般の英語学習者が想像する以上に”かなり険しい道のりです。しかし、固定観念・世俗的な邪念・雑念を捨て去り、「レッスンの復習として行うディクテーションが、英語習得だけの目的ではなく、まさに『自己の理性(reason)と感性(sensibility)を磨き上げることを目的とする極めて重要な時間的空間』である」と捉えることができるようになれば、「ディクテーションを行う」という学習行為に意義・価値を見出し、ディクテーション自体が楽しくなっていきます。

「日々のディクテーションが楽しい」と感じられるようになったとき、あなた自身、「生井利幸が賦与する指導内容の（初歩的）標準ラインに乗れた」と考えてもよいでしょう。ディクテーションが楽しめるようになった受講生には、明らかに「次のステージ」が見えてきます。

その「次のステージ」とは一体何を指すのでしょうか、・・・このことは、【特別講義】「国際的教養・品格を備えた英日バイリンガルへの道」に掲載されている相当数の英語音声講義、及び、文書教材を勉強していくことによって、少しずつ鮮明に認識・理解できるようになります。